

実を結ぶ妨げに打ち勝つ - マタイ13:1-23

今朝お読みした箇所から、いくつかのことを簡単にお話ししたいと思います。これはとても有名な聖句であることは承知している。しかし、私はこの種を蒔く人のたとえ話の背後にある主旨を吟味したいと思います。このたとえ話の主題は、実を結ぶこと、特に神のことばを聞く人たちである。ここでは、全員とは言わないまでも、ほとんどの人が信者であると信じたいので、信者に焦点を当てることにする。

実を結ぶことは、信仰者の人生にとって不可欠な要素である。実を結ぶことは、単に重要な側面というだけでなく、私たちのクリスチャン生活の鍵であるとさえ言ってもよいだろう。実りについて聖書が語っていることを見てみよう。ヨハネの福音書15章は、このテーマについて多くのことを語っている。5節には「5わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」ここでイエスは、実を結ぶことがイエスのうちにとどまることの結果であると指摘している。しかし、もっと興味深いのは、イエスは実を結ばないことを、何もしないことと同一視していることである。同じ章の8節には、「8あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる。」イエスはさらに16節に「16あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。」これらの節は、実を結ぶことが、信仰者が神に期待される主要なことを示している。

実を結ばないということは、決して軽んじられるべき問題ではないということ、もう一度言っておこう。先ほど読んだヨハネによる福音書15章5節で、イエスは、わたしを離れては、したがって、実を結ばない枝は切り落とされると述べている。実を結ぶことの重要性の理由は、考えてみれば明らかだ。第一に、実を結ぶことは継続性をもたらす。実を結ばない植物は、その継続性を維持することができない。そして第二に、実を結ばないとき、私たちが満たしていない期待がある。エレミヤ2:21-22で、神はご自分の民を選び抜かれたぶどうの木に例えておられるが、彼らは神の期待に応えられなかった。神は、私たち信仰者に多くの実を結ぶことを期待しておられるのであり、実を結ばないということは、私たちが神にとって悪い投資であることを証明しているのである。この文脈で実を結ぶとは、その行為において神を賛美する生き方であることを述べておく価値がある。つまり、私たちの人生を神の御心に沿わせようとするときである。

あまり時間を取らせたくない、今朝の検討箇所に戻ろう。イエスがたとえ話を用いて、神の言葉を聞いても実を結ぶ人と結ばない人がいるのはなぜか、という教えを説明している。そもそも、たとえ話とは何なのか、そして、なぜ直接物事を言

うのではなく、たとえ話を使うのか。

高校生の頃、たとえ話は天の意味を持つ地上の話だと定義されていたのを覚えている。今となっては、私は神学者ではないので、最も正確な定義が何であるかはわからないが、それは重要なことでもないと思う。重要なのは、たとえ話とは、イエスが神の国について人々に説明するためにしばしば用いた、人々の共通理解に基づく物語だということだ。未知のものをよりよく説明するために、既知の知識や理解を活用するのだ。

今日の箇所は10節から17節でイエスが語られるたとえ話について興味深いのは、たとえ話は同時に、イエスが語られることの知識を明らかにすると同時に隠すということである。13節で、イエスは、人々が聞いても理解しないので、たとえを用いると言われ、イザヤ書6:9-10にある預言者の預言が成就している。つまり、イエスは民衆が理解できるようなたとえを用いて説明されたにもかかわらず、民衆は理解しようとしなかったのだ。しかし、理解する者にとっては、それは大きな祝福である。

いずれにせよ、この箇所は今日の焦点ではない。
たとえによって神の助けについて語り、そこから学ぶ事である。

この箇所ではイエスは、種をまく人が畑に種を撒く様子を例えに出して説明している。この時代の平均的な人々は、植えることについて何か知っているということは、誰もが認めるところだろう。人々の中には農民も多く、イエスがたとえで描いた絵は、彼らにとって突飛なものではなく、イエスの言わんとすることを正確に理解していたはずだ。

では、いったい何が起こったのか。イエスは、とうもろこしを蒔きに出かけた男、すなわち種を蒔く人を紹介する。彼は農場と思われる場所に着くと、畑に種をまいた。ここから少しメモしておこう。同じ種類の種があちこちに撒かれた。種は畑の中で同じ状態に置かれ、唯一の違いはそれぞれの種が落ちた場所である。このたった一つの違いが、異なる結果を生み出したのである。

イエスが最初に言及したのは、道ばたに落ちていた種である。これらの種は鳥に食べられてしまい、成長する機会さえなかった。ここで、植え付けがどのように行われるのか、少しお話しさせてください。

農家は苗を植える前に地面を耕し、柔らかくする。また、土壌に空気を含ませることで、植物の健康に重要な役割を果たす。一方、通路の地面は常に歩かれているため、固く締まった状態になっていることが多い。数歩歩くと滑らかになることが多いが、何かが成長するのは非常に難しい。この箇所と最も関係があるのは、雨が降ると、表面が硬いために種が押し込めないということだ。たとえ話に戻ると、小道のそばで感じた種が成長する見込みがなく、鳥に食べられてしまった理由がわかる。

イエスが語られた第二のカテゴリーは、岩場に落ちた種である。土がほとんどなかったため、種は比較的短時間で発芽した。短時間で発芽するというのは良いことの

ように思えるかもしれないが、問題は、植物の根が必ずしも地中深くにあるとは限らないので、他のよく根を張った植物よりも早く水不足になるということだ。また、岩の上に座るということは、太陽の熱をより強く感じるということであり、これがまさにこれらの種に起こったことなのだ。太陽が昇ると、この若い植物は枯れて干からびてしまった。

3つ目のカテゴリーでは、種はとげの茂みの中に落ちていた。これは、農家がまだ畑の準備をしていない場所だろう。植え付けに適した場所とはいえ、イバラの茂みが残っている。通常、農家は植え付け前に地面を整地し、雑草を定期的に除去する。予想通り、この茂った土地で感じた種は成長したが、すぐにイバラの茂みに詰まってしまった。

そして最後に、良い土地に落ちた種である。あるものは100粒、あるものは60粒、またあるものは30粒であった。これは、これらの種が植え付けに適した土地に落ちたためであり、成長だけでなく実を結ぶことにもつながる。

さて、ここしばらく植え付けと種について話してきたが、我々は次のことを知っている。イエスが話していたことの要点は、植物を説明することでも、単に物語を語ることでもない。

たとえ話に出てくるそれぞれの要素は、イエスが伝えようとした実際のメッセージにおいて象徴的なものである。さて、たとえ話に出てくるそれぞれの要素は、いったい何を表しているのだろうか？

このたとえ話に登場する種蒔きとは、神の言葉（福音）の種を蒔くイエス自身のことだろう。種が蒔かれる地面は、神の言葉を聞く者一人一人を表している。私たちは、イエスという同じ種蒔き人が、神の言葉という同じ種を蒔き、それが異なる地面、つまり聞く人それぞれに落ちるのを見ている。ここでの鳥は、サタンや悪魔など他の名で呼ばれる悪者である。いばらの茂みは、一人ひとりの心の中にある欲望を表している。

さて、これらの事柄がそれぞれ何を表しているのかわかったところで、弟子たちがたとえ話の意味を尋ねたときにイエスがした説明を詳しく見て、私たちがこのたとえ話を今日の私たち自身とどのように関連づけることができるかを見てみよう。

この地面を大きく分けると、「良い地面」と「あまり良くない地面」の二つに分類することができる。良くない地面とは、神の言葉が聞き手の人生において実を結ばない要因を表しているので、信者、少なくとも神の言葉を聞く者において実を結ぶ妨げになるという観点から見るべきだと思う。

19節でイエスが説明しているように、最初の妨げは理解の欠如である。神の言葉を聞いても、その内容を理解できない人は、道ばたに落ちている種にたとえられる。鳥がこれらの種を簡単に見つけて食べるように、悪者もそのような人々からこれらの言葉を摘み取ってしまう。

さて、神の言葉を理解していない人々といえ、当然、未信者か若い信者のどちらかを思い浮かべるだろう。これは決して間違った考えではないが、それ以上に目を向けてほしい。未信者や若い信者が神の言葉の真の意味を理解していないことはあり得るが、長い間信仰している人であっても、時にはその範疇に入ることがある。イエスの時代を見ても、パリサイ人たちは多くのことを知っているはずなのに、イエスの教えのほとんどを理解していなかった。なぜそうなのか、と人は尋ねるかもしれない。硬直した心や開放性の欠如が、理解不足につながるのだ。たとえ話にあるように、種は通路に入らない。同じように、心が固くなっていると、聞いたことはすべて頭の中にとどまり（つまり、心に浸透しない）、そこで迷ったり、見失ったりしやすくなる。パリサイ派の人々が古い習慣にとらわれて福音の理解を妨げていたように、今日の信者は老若男女を問わず、神の言葉を聞いても心に根を張ることはない。

別の見方をすれば、物事を成長させるための道筋が準備されていないということだ。祝福されるための準備なしにみことばを聞くと、結果的にみことばは片方の耳から入ってもう片方の耳から出て行ってしまふ。これは、私たちが自分自身に問いかけ、挑戦しなければならないことだ。あなたは、教会に来ることを日課のように、やらなければならないこととしているのでしょうか、それとも、神の言葉を受け取る用意をして、意図的に教会に来ているのでしょうか？神の言葉を受け取り、神のメッセージに心を開く準備をしなければ、メッセージが私たちの人生に影響を与えることは難しく、実りを妨げることになる。

岩場に落ちた種に代表される2つ目の障害に移ろう。これは外的要因と呼んでいる。マタイによる福音書13章の20節と21節で、イエスはこのような人々を、みことばを聞いてすぐに喜びをもって受け入れる人々だと述べている。しかし、みことばが彼らのうちに深く根付いていないため、トラブルや迫害が起こったとき、みことばの結果、彼らはすぐに離れていく。種が比較的早く芽吹くように、これらの人々は喜びをもってみことばを受け取り、すぐに行動に移そうとする。最初は、これはむしろ良いことのように思えるが、そこには大きな欠点がある。メッセージを受け取る私たちには、頭と心という2つの部分があるということだ。耳にした言葉が論理的な理性に訴えかけると、それに基づいて行動したいという衝動に駆られる。だからといって、そのメッセージによって心が触れられたり変化したりするとは限らない。さて、何が起こるかという、メッセージに基づいた行動による抵抗や反対があった瞬間に、頭はそれをあきらめるのが最善だと結論づける。私たちは神の言葉を急がせることはできないし、永続的な影響を期待することもできない。

基本的には、頭で決めたことは長続きしないということだ。マタイによる福音書12章34節で、イエスが「34 おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである。」と述べているのも不思議ではない。なぜなら、すべては心から始まるのだ。聖書が心に焦点を当てているのは、それが私たちの行動を決定するものだからである。聖書が心に詩篇の作者はこのことを知っており、だからこそ詩篇119篇11節で「11 心の中にあなたの仰せを納めています
あなたに罪を犯さないために」

と書いている。神の言葉が私たちの中に深く根付いていないと、社会的、同輩的、あるいは神の言葉に反するあらゆる形の圧力に陥りやすくなる。私たちの人生に神のことばが真に現れるためには、みことばが私たちの心に深く根ざしている必要がある。

私が一番大きいと思う第三の妨げは、内的要因と呼ばれるものだ。イエスはこれを、いばらの間に落ちた種で説明された。22節では、みことばを聞いても、生活の心配や富の欺きがみことばを窒息させると解釈された。ここでわかるように、私たち自身の内なる欲望が、私たちの内にある神の言葉の邪魔をすることがあるのだ。イエスはマタイ6:24で「24だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」地上の欲望に身を捧げ、なおかつ神の御心に献身することはできない。パウロがガラテヤの信徒への手紙5章16節で書いているように、この二つのことは互いに相反することなのだ。これはマルコの福音書10章に出てくる金持ちの青年の場合と同じである。21節から読む：

21イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」22その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。

23イエスは弟子たちを見回して言われた。「財産のある者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」

24弟子たちはこの言葉を聞いて驚いた。イエスは更に言葉を続けられた。「子たちよ、神の国に入るのは、なんと難しいことか。」25金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。

ここで問題なのは、お金を持つことではなく、富が私たちの心に与える影響であることに留意すべきである。富が私たちの心に与える欲望、優先順位、そして富を維持するために私たちに何をさせるかである。

まだ、私たちの心の欲望の話だが、ヤコブ書1章14節と15節にあるヤコブの言葉を見てみよう。「14むしろ、人はそれぞれ、自分自身の欲望に引かれ、唆されて、誘惑に陥るのです。15そして、欲望ははらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。」

そのような欲望は、私たちの内にある神の言葉を窒息させ、誘惑を引き起こし、罪へと導く。

私たちが心を完全に神に委ね、神が私たちの切望を完全に管理してくださるまでは、私たちの欲望は神が私たちに期待することの邪魔をし続けるだろう。

これまでの話を簡単に振り返ってみよう。私たちは、実を結ぶことが信仰者の人生にとって重要な部分であるという事実を確立することから始めた。神は私たちが実を結ぶことによって栄光をお受けになり、私たちが多くの実を結ぶことを期待して

おられる。実を結ぶ前に、種を蒔かなければならない。しかし、私たちのうちに神の言葉が育ち、実を結ぶのを妨げる要因がいくつかある。その第一は、邪悪な者が私たちからみことばを引き出すことを可能にする理解力の欠如である。二つ目は、私たちの心の中にあるみことばの浅さによって助長される外的要因である。言葉が心に深く根付いていないのに、どうして心が根付くのだろうか？そして最後の要因は、私たち自身の欲望に起因する内的要因である。私たちの内にある神の言葉と対立し、競い合う欲望や情熱である。

成長と実りの妨げとなるものがわかった今、当然の疑問は、これらの妨げをどのように取り除くかということだろう。では、1つずつ見ていこう。

私たちがいつも耳にしている神の言葉を理解していないように見るとしたら、その第一歩は、理解したいと願うこと、その内容を実際に知ることだと思う。そして、神の国や神の言葉についての真理を理解するのは、自分の努力によるのではなく、神の恵みによるのだということを知らなければならない。ヤコブ1:5には、「5あなたがたの中で知恵の欠けている人がいれば、だれにでも惜しみなくとがめだてしないでお与えになる神に願いなさい。そうすれば、与えられます。」とある。神の道は人の道とは大きく異なるので（イザヤ55:8）、自分の知恵だけで神の言葉を理解することは不可能だ。理解するために神の助けを求めて祈るとき、私たちは神の言葉を受け取り、その変容の働きに対して心を開くことができるように準備することが重要である。

第二の要因に移るが、どうすれば神の言葉を心に深く根付かせることができるのだろうか？ヨシュア記1章8節には、「8この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜も口ずさみ、そこに書かれていることをすべて忠実に守りなさい。そうすれば、あなたは、その行く先々で栄え、成功する。」とある。日曜日に説教を聞いて興奮したり、何か違うことをしに行くために走り出すだけでは十分ではない。私たちは神の言葉を黙想し、反省し、自分の人生を吟味し、その言葉が私たちにどのように語りかけているかを確認し、その言葉が私たちの中で成熟するようにしなければならぬ。

固くなった心についても話したが、神が和らげられないことはない。エゼキエル36:26には、「26わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える。」とある。神は私たちの心を直すことができるが、私たちはそれを許さなければならない。神は私たちを強制されることはない。私たちはまず、神に委ねる必要があるのだ。

そして最後に、内なる妨げの克服である。私たちの内なる欲望が、私たちの内なる神のことばの成長と実りを妨げ、その結果、私たち自身の実りが妨げられるのを防ぐにはどうしたらいいのだろうか。マルコによる福音書8章34節には、「34それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」」イエスは、私たちがイエスに従いたければ、自分の欲望を捨てなさいと教えている。このことは、パウロがコロサイ3:5の手紙の中で「5だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、

不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去りなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。」と書いたことと似ている。

加えたい1節である、ローマ人への手紙12章2節に、「2あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」私たちの人生に、変容と実りをもたらす神の言葉を完全に現すためには、地上の欲望を捨てる必要があることがわかる。私たちの願いやあこがれが、この世の虚栄のためではなく、神を知り、神の善と完全な御心を実現するためになるように、神が私たちの心を変えてくださるのだ。

これらの障害を克服した結果、単なる成長ではなく、実際の実りがもたらされる。これは重要なことである。この文脈では、成長はゴールではなく、ゴールへの手段である。そして、これは多くの信者を停滞させている幻想である。岩場やいばらの茂みに落ちた種のように、信者はある種の成長を経験するが、その成長は意味のある実を結ばない。この場合の顕著な証拠は、しばらくすると、その成長の痕跡がすべて失われ、別の何かに向かってしまうことだ。しかし、彼らがこのような聴覚と成長のサイクルを繰り返しているという事実は、彼らが実際に正しいことをしているかのように錯覚させる。詩篇1:1-3にはこうある：

1いかに幸いなことか
神に逆らう者の計らいに従って歩まず
罪ある者の道にとどまらず
傲慢な者と共に座らず
2主の教えを愛し
その教えを昼も夜も口ずさむ人。
3その人は流れのほとりに植えられた木。
ときが巡り来れば実を結び
葉もしおれることがない。
その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。

この箇所は、成長だけでなく、実を結ぶことも重要であることを示している。そして繰り返しになるが、実を結ばないことには継続も糧もない。蒔く種があるのは、その種が以前に実ったからに過ぎない。私たちの成長の本質は、実を結ぶことなのだ。

今朝を締めくくるにあたり、自分の内側に神の言葉の実りを妨げているものがないかどうか、内観してほしい。今朝、自分自身を吟味し、正しい調整と修正に取り組んでほしい。神が私たちの欠点を明らかにしてくださり、それを克服する恵みを与えてくださることを祈ります。アーメン。